



平成21年2月23日

滝川市議会議長 中 田 翼 様

滝川市長 田 村 弘  
滝川市教育委員会委員長 若 松 重 義

総務文教常任委員会への説明員の出席について

平成21年2月19日付け滝議第169号で通知がありました総務文教常任委員会への説明員の出席要求について、次の者を説明員として出席させますのでよろしくお願いします。

なお、公務等の都合により出席を予定している説明員が欠席する場合がありますので申し添えます。この場合、必要があるときは、所管の担当者を出席させますのでよろしくお願いします。

記

滝川市教育委員会委員長の委任及び滝川市長の委嘱を受けた者

|              |                    |
|--------------|--------------------|
| 教育長          | 小 田 真 人            |
| 教育部長         | 高 橋 一 昭            |
| 教育部指導参事      | 早 瀬 公 平            |
| 教育部学校教育課長    | 吉 川 修              |
| 教育部学校教育課副主幹  | 杉 原 慶 紀            |
| 教育部学校教育課主査   | 鳩 山 稔              |
| 教育部学校教育課主査   | <del>黒 川 靖 子</del> |
| 教育部学校教育課主査   | 土 橋 祐 二            |
| 教育部心の教育推進室長  | 水 林 俊 治            |
| 教育部心の教育推進室主査 | 丹 那 暢 仁            |

(総務部総務課総務グループ)

## 第 19 回 総務文教常任委員会

H21. 2. 24 (火) 午前 10 時 00 分  
第三委員会室

○ 開 会

○ 委員長挨拶（委員動静）

1 所管からの報告について

《教 育 部》

（1）滝川市小・中学校適正配置及び耐震化の考え方について

（資 料）学校教育課

（2）学校支援地域本部事業について

（資 料）心の教育推進室

2 その他について

3 次回委員会の日程について

○ 閉 会

開 会 10:00

**委員動静報告**

委員長

全員出席。議長。委員外議員～水口。空知新聞社の傍聴を許可。  
次第の順番を変更して(2)から進めさせていただく。(2)を説明願う。

**1 所管からの報告事項について**

**(2) 学校支援地域本部事業について**

水林室長

(別紙資料に基づき説明する。)

委員長

説明が終わった。質疑はあるか。

窪之内

① コーディネーターの年齢と住んでいる地域を伺う。

② コーディネーターの活動拠点は各学校に置くことになるのか。人件費等を考える場合に交通費などをどのように考えているのか。またいろいろなところに出向く際の交通手段はどのようになっているのか伺う。

③ 地域教育協議会が開催された後に学校支援ボランティアなどの人材育成が始まると思うが、教育委員会としてのかかわりはどうなっているのか。コーディネーターがいろいろと業務をしていくということだが、学校により活動の仕方が違ってくると思う。今後の学校支援事業の企画や人材バンクの募集等がどのように進められていくのかももう少し具体的に説明願いたい。

水林室長

① コーディネーターの年齢と居住地だが、武藤健治さんは68歳、西町。濱出幸雄さんは64歳、一の坂町。藤田謙吾さんは66歳、西町。佐藤律子さんは61歳、黄金町である。本来校区内の方が望ましいが、人選が難しかったので、極力今の居住地に近いところで担当の選定をさせていただいた。

③ 人材バンクの募集においては、今コーディネーターにも案を練ってもらっている。例えば学校の支援ということでは職員OBの方などにもかかわるので、そういったOB会へお手伝いしていただける方はいませんかと呼びかけの文章などを出すことなどを考えている。また教職員にはこの事業の内容を含めたPRをして、市民向けには3月の広報に折り込みの形で事業の理解と呼びかけをしたいと考えている。そのほかにはまだ案の段階だが、何らかの形でチラシやポスターなどを公共施設に張るなどの企画、立案をコーディネーターにやっていただいている最中である。

② 交通手段等については交通費込みの日額ということで考えており、コーディネーターには1時間1,200円の謝金報酬を支払わせていただくことになっている。コーディネーターは今4名とも教育委員会に席を置いているが、将来的に学校に拠点を置き、そこに配置する中で業務をしていくのがいいのか、それとも教育委員会に席を置いて各校区に出向くのがいいのか今後教育委員会を含めて検討していかなければならないと思っている。いずれにしても4名の情報を共有化することで、常にお互いの持っている問題や課題を出し合って、その解決やいい方向になるような対策をとっていきたいと考えている。

窪之内

① 皆さん退職者ではあるが、健康であればやっていただける年齢だろうと思いつながら聞かせていただいた。居住地について伺ったのは、その地域性などを理解してもらい、いろいろな方との接触を踏まえていく意味ではその地域に住んでいたほうが良いと考えていたからである。ただ今回はそういう努力をされ

たが、結果としてできなかったということだった。今後もコーディネーターを変えずにやっていくのか、それとももしそういった方がいれば変更もあり得るのか。その辺の考えを伺う。

② 学校の支援ということからコーディネーターは学校を拠点にして業務を行い、そこで学校長も含めた地域教育協議会を設けるものだと思っていた。各学校において支援してもらいたいことは違うし、そこで必要な人材も違うと思う。そういうことではコーディネーターが教育委員会にいていいのか疑問に思う。今まで教職員がやってきたことを地域の力を借りて無償でやってもらおうということであり、地域のつながりを持ち地域ぐるみで教育を考える場にもなるので、そういう点でコーディネーターの果たす役割はすごく大きいと思う。コーディネーターは日常どのような活動をするのか。また人材バンクの登録については、1名が複数の校区に登録することはできないのか伺う。

水林室長

① コーディネーターはこれから2年間やってもらうわけだが、現在の方が継続してやっていただけるのであればお願いをしていくなど選任については柔軟に考えて対応していきたいと思う。

② 拠点の関係だが、私どもは小学校も含めた中学校区と考えている。ステージとなるのは学校であり、3月に開催する予定の地域教育協議会についても学校を会議室として使わせていただく。今は席を教育委員会に置いているが、やはり拠点について考えると日常の活動においては学校でやるのがいいのかもしれない。ただ最初から学校に席を置くのがいいのかは教育委員会でもこれから検討をしていきたいと思う。人材バンクの登録については広域的に考えており、必ずしもその地域だけに限定することなく行っていただく場合もあると思っている。柔軟に幅広く対応したいと思う。コーディネーター4名における4中学校区のバランスはとれていると思っており、佐藤律子さんは江部乙町には遠いが、位置からすれば望ましいという気もしている。今後地域教育協議会の方とも相談をしていく中で、いろいろな情報を入手し、各校区に合った特色ある学校支援ボランティアを展開していきたいと考えている。コーディネーターの具体的活動については、会議を行う場合の案内発送や人材バンクに登録する際の対応などがある。協議会と重なる部分も出てくると思うが、いずれにしても連絡や調整ということで地域と学校のパイプ役、かなめになると思っており、当然協議会にも参加していただくことで考えている。

窪之内

1時間1,200円と有償なのはコーディネーターだけであり、無償のボランティアに動いてもらわなければいけないので、コーディネーターが日常的にどのような活動をしていくのか本人も含めてその仕組みをはっきりさせないとだめだと思う。自分たちは無償なのにあの人たちは有償だと思われるようではまずい。コーディネーターの位置づけをきちんとして、有償ということがはっきりわかるような活動をしてもらう必要があると思うが、いかがか。

水林室長

20年度は実施できなかったが、コーディネーターの占める役割、どこにポイントを置くのかなどを専門の講師を招いてコーディネーター養成講座を新年度に開催しようと計画している。コーディネーターには実際にボランティアをやっていただく際にも現場を見ていただこうと思っている。先日も登校時に校区へ出向いていただき、町内会やPTAの中に顔を出していただいた。そういうことをきっかけに地元に入っていけると思うので、コーディネーターは机にいたるだけではなく、より多く地域に入っていくことを頭に置きながらこち

- 窪之内 ① 支援事業は21年度当初から始めようとしているのか。
- 水林室長 ② 既に見守りなどをやっている団体がある。人材バンクの登録に当たっては、そういう団体が登録するということもあり得るのか。
- 委員 長 ② 今学校へ意向調査を行っているが、既にかんがりの団体に手伝いをしていただいている状況である。その既存の部分で大事にする中で、さらにプラスしてより充実した内容の支援に拡大していきたいと考えている。
- 大 谷 ① 事業については21年度からやる方向で考えている。
- 水林室長 他に質疑はあるか。
- 大 谷 ① 藤田謙吾さんは元夕張市の校長だが、滝川市と何か関係があった方なのか。
- 水林室長 ② 学校支援ボランティア(無償)の部分だが、環境整備、子どもの安全確保、学校行事等の開催などは一般の方でもボランティアとしてやりやすいと思うが、学習支援活動については直接授業の指導をする場合もあるのか。単純に準備や後片づけ等の支援になるのかははっきりさせないとなかなか登録しづらいと思う。授業そのものをチームティーチングのようにするのであれば、教職員のOBや塾の先生など対象が限られると思う。学習支援活動とはどういった支援なのか。また部活指導などのいろいろな状況も発生すると思われるが、それらについては学校の中の活動なので、学校の保険等が適用になるととらえていいのか。
- 水林室長 ① 現在西町に住んでおり、その地区の自治会役員等をする中で積極的に参加していただいている方である。私どもとしては滝川市に対して何らかの形で深く活動をしていただいている方なので、コーディネーターとして適任だという判断をした。
- 大 谷 ② 支援内容については、学校として地域の方にどういったものをどこまで求めようとするのかを詰めていかなければならない部分である。そういったものをまとめた中でやっていくことになる。例えば今実際にやっているスキー授業の指導や理科実験の単純な準備の手伝いなどいろいろなケースが出てくると思う。それらをこれからの地域教育協議会やコーディネーターと詰める中で学校と十分に話し合いボランティアの確保に努めていきたいと考えている。保険についてだが、学校で入っている損害賠償とこのボランティア保険と区分した中でやっていき、保険料は教育委員会でかけることになる。
- 大 谷 ボランティアをする方についてはわかったが、子供たちに対する何らかの補償というものは学校の保険で扱うということで確認してよいか。つまり校外から離れた活動というものもあると思うが、それは学校行事の中の一部だからそういったものも適用されるととらえてよいか。
- 水林室長 そうとらえてよい。
- 大 谷 コーディネーターの佐藤律子さんは元校長ではないが、これまでの人選を見ると校長退職者に当たるケースが非常に多いと思う。学校を退職してそういうことをしたいと思っているOBの先生方も結構いるので、なるべく地域に密着した形で広く人選をしていく方向でやっていただきたいと思うが、いかがか。
- 水林室長 この事業を展開する前段で教職員のOB会、校長会など退職教員の会に呼びかけをしてお願いをした。教育相談員などにもかかわっていただくことからいろいろと幅広く呼びかけをしたが、コーディネーターという職名に賛同していただけない方もおり、人選に難しいところがあった。またコーディネーター4名においては、やはり女性の方にも参画をしていただきたいという意向の中でこ

|               |                                                                                                                                                                                                                             |
|---------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 大 谷           | ういった人選となった。先ほども説明させていただいたが、これからもまだ事業が継続されるので人選についても柔軟に対応していきたいと思う。                                                                                                                                                          |
| 委 員 長<br>副委員長 | 佐藤律子さんについては夫が江部乙中学校に勤めていたが、そういった中で女性が参画できたのはよいことだと思う。答弁は要らない。<br>他に質疑はあるか。                                                                                                                                                  |
| 水林室長          | 学校地域支援本部というのは学校の教師が子供と向き合う時間をつくるためにできたものだと思う。実際のところ地域の育成会やPTA、連合町内会などが学校と直接やっているのが現状だと思う。そのいいところはスピードを持って校長の裁量権の中でできるということだと思う。それがこのコーディネーターなどを挟むことで判断が遅くなるのではないかという心配がある。どのような考えで調整していくのか伺う。                               |
| 委 員 長         | 既存のPTA、町内会、育成会等の活動は大事に継続をしていき、それにプラスするものと考えている。この事業をやることで展開が遅くなったりするという理解はしていない。学校支援地域本部事業はその地区だけでなく、滝川市内全域で総合的に支援や応援を頼めるというのが大きな目玉だと思う。例えばスキー授業のときにこれだけの人数が必要だが、校区内ではこれしかない。そこで違う校区に声がけをすることで支援の確保ができるというようなメリットがあると考えている。 |
| 水林室長          | 私も確認をしたいことがある。今までPTAや育成会などでいろいろとやっている中で、学校との連携はなかなか簡単にとれないものだと感じている。一生懸命にやってもこの先生とは一緒にできないなどいろいろと出てくるので、新たにこういうことをやるとまたネックになると思ってしまう。地域教育協議会のところに校長、教頭、教諭と書いてあるが、そこら辺の橋渡しはどのようなになっているのか説明願いたい。                              |
| 委 員 長         | 事前にこの事業の趣旨について文書を教員全員に配っている。また地域へ目を向けるといった教員の意識改革は今後も根気強く行い、校長会などのいろいろな機会を通じてやっていきたいと思う。教員は転勤等もあり、地元に住まないことが課題だが、その中でも地域の方も学校に目を向けるので、教員の方も地域に少しでも目を向けていただきたいと私どもも何かの機会においてより多くそういったことのお願いをして進めていこうと思っている。                  |
| 水林室長          | 進めたいということはわかるが、実際に各学校の会議等ではどのような状況なのか。どのような意見が出ているのか。その辺の把握について伺う。                                                                                                                                                          |
| 委 員 長         | 全教員にこの制度を知っているかどうか、もし地域へ応援を頼むとすればどういふものが必要かなど意向調査をしている。当然この出発時点においてはこういう事業が滝川市で展開するという周知を会議や打ち合わせの中でしていただくよう各校長にお願いをしている。一般教員の調査については今月末か来月早々に集約されたものが出てくる予定になっている。                                                         |
| 水林室長          | コーディネーターについてだが、江陵中学校と明苑中学校に元校長が常駐するとどのような雰囲気になるのだろうか。事務局的な仕事をするということだが、学校側はどう受けとめているのか。元校長が出入りしてどこかの部屋にいるというのはどうなのだろうか。イメージがわからないが、その辺については何か配慮されているのか。                                                                     |
| 水林室長          | 学校では割り切っており、現在の状況の中で連携をとっていただけるものと思っている。また21年度4月以降は週3回、3時間ということで考えているので                                                                                                                                                     |

委員 長  
関 藤

うまくいくのではないかとはいっているが、そういうことも含めた中で学校とも詰めていかなければならない課題だと考えてはいる。

弊害にならないように進めていただきたい。他に質疑はあるか。

この事業は各自治体で進められていると思うが、少し気になるところがある。教員よりも能力のすぐれているボランティアが入ることが実際に起きている。あの先生は何なのかと地域で言われ、その先生の面目もなくなり、不評として広まるといった問題点が出ているところもある。ボランティアの位置づけや立場をしっかりと本人に認識してもらいやっていただかないとだめだと思う。ただ漠然とこういう手伝いができるからお願いしますということでやるのは問題があるので、その辺を注意していただきたい。意見である。

委員 長

他に質疑はあるか。(なし)

(2)について報告済みとする。(1)について説明願う。

#### (1) 滝川市小・中学校適正配置及び耐震化の考え方について

委員 長

教育委員会では協議をしながら進めていた案件である。今回出していただいた資料は教育委員会事務局段階のものである。26日に教育委員会議があり、その後に正式なものが発表されると思われるので、きょうは今の段階で出せる範囲の資料の中で議論、質疑をいただきたいと思う。

吉川課長

(別紙資料に基づき説明する。)

委員 長  
井 上

説明が終わった。先ほど申し上げたことに留意して質疑願う。質疑はあるか。地域との関係はどうなっているのか。11月に地域懇談会をやったが、そのときもこの件については出ていない。地域住民との話し合いを設けなければならないと連合町内会長より申し入れがあったと思う。その対応はどのようになっているのか。私は前から話をしているが、地元というエゴで言っているわけではなく、この問題は行政と教育の両輪の問題であり、滝川市全体の将来の発展のためにどうあるべきかという観点から話している。公式の場に出す前の地域懇談会についてはどうなっているのか伺う。

高橋部長

町内連合会には先週の金曜日に事前に話をさせていただいた。その中では、役員会が3月中旬にあるので、そこでこの内容について町内会へ話をしたいとのことだった。私どもとしてはその前に必要があればこちらから伺って話をさせていただきたいと伝えた経過がある。まずは役員会に諮り、どの時期がいいのかということ町内会の中で協議していただき、連絡をいただくことになっている。地域対応はそのような方向で進んでいる。

井 上

1月に連合町内会長もこのような形で公表されては困るということで教育長に申し入れをしているはずだが、そういう話し合いがされていないと思う。従来の活力再生プランには、平成19年度以降に地域住民と十分話し合いをし、合意形成を図りながら再編計画を策定しますと書いてある。これがこの件に臨む市長の姿勢だと思う。連合町内会長はそうのように言わなかったか。

教 育 長

連合町内会長からはまちづくり懇談会でもそのような話をいただき、個別に説明を申し上げると話をした。その個別に説明をするときのたたき台となるのが今回の素案である。この考え方の資料ではコンパクトに記載をしているが、右側中断に適正配置に当たっての留意点ということで、今後のまちづくりの将来的な展望を考慮します。住民に説明を行い、適正配置についての理解を求めますと記載させていただいた。これから議論をしていく上でそのたたき台となるものがなければ、具体的な話が進まないということもあり、またPTA役員会

との懇談やアンケートの中でもどこがどうだという第三者的な意見なら言えるが、やはり具体的なものがないと話のしようがないということだった。私もは当然当該地区の方、保護者、あるいは市内全域の方へ具体的にどういう方向で教育委員会が考えて、将来的にどうしなければならないのか、そういうときに学校に対してどういう考えを持っていかなければならないのか、どういう地域をつくるのかという具体的なものを示さないと進まないと思っているので、こういう形で示させていただいた。決してこの考え方や素案がコンクリートのものではないと認識をしている。

井 上

この書き方には差がある。東栄小学校は統合します。江部乙中学校は検討しますとなっている。そして適正規模は小学校は2から3学級で、中学校は2から6学級となっている。存続するとかそういうのではなく、適正規模などの書き方に問題があると思う。やりやすいところからやろうといった書き方になっている。最初に言うておくが、地域的なことと言っているのではなく、滝川市がこれから発展するためにこれでいいのかということと言っている。都市マスタープランにも地域コミュニティの活性化ということで出ている。限界集落と呼ばれる地域があるが、そういうことにならないように私は今までも提言してきたつもりであり、18年には東滝川地域美ジョン懇談会を立ち上げた。その結論とも違っている。PTAや育成会へ話をするのもわかるが、地域との合意を図ることをやっていない。内部の話し合いをするのはだれでもできる。きちんと住民との話し合いをしてからこういうものを示さないとおかしいことになる。またこういうことをマスコミも書くので、去年は8人くらいの入学予定者がいたが、結局3人になった。いろいろと影響して実際に入学する人数が少なくなっている。そういう影響があるので慎重に進めなければならないと言っている。その辺の考え方を聞かせてほしい。

委員長

質疑を整理させていただく。内部だけではなく地域との話し合いについてということだが、この委員会も報告を受けながら進めなければならないということは理解していただきたい。地域などとの議論が先に進んでいるのに報告がないということにもならないのでそれだけは大前提においた上で質疑願いたい。

井 上

地域との意見交換をきちんとやらなければ、これを公にしてはならない。余りにも影響が大き過ぎるので、その考え方について伺いたい。机上だけでやっているのではなく、地域と現場に入らなければならない。そういうところの考え方を話してほしい。

教育長

委員の言われた都市マスタープランとの関連だが、適正配置に関する内部の会議を設けており、防災担当や都市計画担当など幾つかの分野を含んでいる。当然東滝川地域美ジョンも知っているし、都市マスタープランにおいては22年度に見直し作業があることもわかっている。東滝川、江部乙、滝川という大きな3地域のくくりの中で都市マスタープランがつくられることも庁内会議の中で聞いている。そういう意味では連携を密にしながらやってきている。都市マスタープランの素案は21年度にまとめられると聞いているので、最終的に計画になる段階では都市マスタープランとの整合性を図る必要があると認識している。逆に地域との議論を先に進めて、後になって総務文教常任委員会へ地域の方の了解を得てこのようになったので報告しますという議論にはならないと思う。何らかの形でスタートをするものがこの考え方だと思っているので、これから精力的に地域の方と話をしたいと思っているし、その中では防災の観点、まち

井 上

づくりの観点、さまざまな観点の問題が出ると思っている。東滝川に限らず江部乙も市街も、教育委員会だけではなく市長部局の応援を得ながら地域の方と総合的なその地域のあり方の議論をこの先活発にしていくことになるだろうと思っている。子どもはそういうことを決して否定をしているわけでもない。コスモスニュータウンをつくったときに約150戸ふえ、生徒も約100人ふえた。施策と学校は共存している。私が言っているのは、都市マスタープランで土地の利用形態を変えるべきだということである。土地の利用そのものが手足を縛ったようなものになっている。土地利用計画、農振地域の問題、畜産試験場の跡地問題などまだまだやり方はたくさんある。教育委員会が一生懸命やっているのはわかるが、そういう話し合いを現場とやっていない。これからはきちんと進めていただきたいし、その上でマスコミに発表してもらわないと困る。私の意見である。

委員長  
大 谷

他に質疑はあるか。

計画前期のところで、東栄小学校は将来的に児童数の増加が見込めない場合は統合すると書かれているが、江部乙小学校は登下校の体力面や通学時間の負担が増すことから存続するとなっている。いろいろと事情はあると思うが、江部乙小学校への通学距離は東栄小学校区の方が納得するだけの遠い距離なのか。江部乙小学校のスクールバスの乗車時間だが、最も長い児童で40分かかっている。そこからさらに市街地へ来ると1時間近くかかるので、かなりの時間乗車しなければならない状況にある。東栄小学校については市街地に近いので乗車時間は5分から15分くらいと計算している。ただバスが回ることを考えると30分くらいはかかると思う。

委員長  
窪之内

他に質疑はあるか。

① これは検討段階の素案ということでコンクリートではないと言われていたし、この委員会にこういったことが示されること自体が初めてのことで、確定的な報道にはならないと思う。まだ決定したものではないということで進めてもらわなければだめだと思う。江部乙小学校について登下校の体力面のことを言っているのにかかわらず、それが計画後期では中学校の統合があり得るようなことになっている。それは小学生と中学生の体力の違いということを考えてのことなのか。また統合先について東栄小学校で言えば東小学校、江部乙中学校で言えば江陵中学校と考えているのか。19丁目の奥から江陵中学校まで出てくるのは中学生とはいえかなりの遠い距離である。そういうことも住民から意見が出されると思うが、その辺の考え方を伺う。

② 計画後期の後、耐震化も進めている中で小学校5校、中学校2校となっており、この辺がよくわからない。開西中学校の建てかえをするのであればそこが1校残るということなのか。既に一定の地域的なイメージを持っているからこういう表現をされているのか伺う。

吉川課長

① もちろん小中学生の体力の違いというものも十分に考慮している。国で示している通学距離の基準でも小学校は4キロメートル以内、中学校は6キロメートル以内である。また徒歩やバスで通っても負担のないようなことを考えることも念頭にある。先ほども説明したが、江部乙小学校の場合、スクールバスを利用しても第二小学校は非常に遠い距離になる。中学校の場合スクールバスを利用するが、これも江陵中学校となると非常に大きな時間を割くことになる。中学校に行くといろいろな活発な教育活動があるし、みずから勉強やスポーツ

に打ち込むということも考えると、中学校の規模も考えなければならないところである。体力面や実際の学校教育活動の中身を考えた中でこのようなことを示した。

② 開西中学校改築と目標とする中学校2校との考え方だが、地形的に見ても東西の2校にするのか、南北2校とするのか整理したところである。東西では西が開西中学校で東側にもう1校。南北であれば江陵中学校と明苑中学校という考え方もある。ただ開西中学校を改築するということになるので将来的に小学校に転用するという考え方も持っており、開西中学校を無駄にしないようにすることを頭に入れながらやっている。ただ校舎の危険な状態を放置できないので開西中学校についてはこのような判断をさせていただいた。

窪之内

① 小学校5校ということであれば、今からマイナス2校となる。そのうちの1校は東栄小学校であり、もう1校がどこなのか。念頭に置いているのであれば答弁願いたい。

② 中学校の2校の置き方はそれぞれあると思うが、将来的なことから見ればそれぞれが自分の学校の存続にかかってくることなので大きな議論が必要になってくると感じた。都市マスタープランだけではなく、教育委員会は各地域でどのような特色を持たせた教育をするのかという観点も必要である。江部乙も東滝川も地域に学校を残すためにはどういった特色ある教育を進めていけるのかという観点を持たないと子供の数などだけで検討していくのはまずいと思う。江部乙と滝川市街は天候も全く違うので、そこをバスで通学させ部活もさせるということでもいいのか。小中一貫校の話もあると思うが、自然に任せるのではなくて残したいという姿勢がないと教育のあり方、学校支援のあり方についても違うものになってしまう。教育委員会側として、江部乙に小学校も中学校も両方残したいという気持ちはあるのか伺う。

吉川課長

① 江部乙小学校においては将来的推計を見ても複式学級などの小規模になるのは少し先だと想定しており、市街地にある小学校がどのような形になるのかということである。現在市街地は通学区域が近い範囲で区切られており、その中で小規模化が進んでいる学校もある。今どの学校がどうだということではなく、将来の人口推計等も見ながら学級維持をどのような形でやっていくのかということを中心にきちんから見極めた上で小学校5校化について考えていかなければならないと思っている。

教育長

② 地域の特色を持った学校をどうつくるかということは教育委員会として考えなければならないと思っており、それぞれの学校がそれぞれの地域の特色を持った教育をされていると思う。その教育をすることにより児童数の増加が図れるかどうかという意味での質疑だと思うが、さまざまなアイデアが地域の方との話の中で出てくれば当然検討する課題になっていくのだろうと思っている。通学路については適正配置の検討段階においても話が出ていると思うが、今回その見直しは提案されていない。その辺の考え方について伺う。

窪之内

吉川課長

今回の資料には示していないが、例えば中学校区の場合、目の前に江陵中学校があるが、明苑中学校に行かなければならないという状況がある。これは小学校区により中学校が決まるという関係から出てくる問題である。一方では現状として通学区域の弾力化を従前から進めてきた。住居の移転や家庭における教育の課題を相談しながら通学区域の変更を認めてきた。特に中学校では入学時期に転居をしてもそのままその学校に通っていいということもやってきた。た

窪之内 今申し上げたような物理的に明らかに遠い学校に行っている状態を今後どのようにするのかについてはこの素案で示していないが、現状を踏まえた弾力的な運用についてさらに掘り下げた検討をしていく考えでいる。

吉川課長 今の答弁によると弾力的な運用をどう進めるかということだけで、この適正配置計画の数年間の中では変更はないと確認してよいのか。

委員長 他に質疑はあるか。

井上 この資料の取り扱い是非常に慎重にしていかなければならないと思うし、教育委員会も現場に出るべきだと思う。以前、プレス空知に掲載されただけで東滝川地域は動揺しており、入学児童も8人くらいいたが、何らかの形で転居をして結局3人になった。そういうことにつながりかねない。この取り扱いは非常に微妙な問題なので、委員長はその辺をきちんと整理してほしい。

吉川課長 昨年の入学者の関係だが、その前年から住民登録上4名の入学者を見込んでおり、1名の方が事情により転出したので、その結果3名となったのが現状である。

委員長 この点について確認のため休憩する。

休 憩 11：36  
 再 開 11：37

委員長 再開する。適正配置の件については冒頭でも申し上げたが、26日に教育委員会議があり、日程をうまく調整することができなかった。1定の前にこの報告を受けることが基本だと思っていたのできょうにせざるを得なかった。本来は教育委員会議の後の日程で行うのが筋だということは十分認識した上のことである。報道においてはぜひそういった部分を加味した中で協力いただきたいと思います。

井上 今後の進め方についてだが、地域住民との合意形成をやる中で判断をしていただきたい。

委員長 他に質疑はあるか。(なし)なければ私から伺う。  
 まず本来のあるべき論を言わせていただく。学校は全部ないものと仮定して、現状や将来どうなっていくのかなどその効果も含めた上で配置していくのがあるべき論だと思う。今やらなければならないのは、小学校5校体制、中学校2校体制に対して論じるべきであって、とりあえず東栄小学校から、とりあえず江部乙中学校からというやり方はよくないと思う。もう1点は現実としてある話だが、市長の任期との関係である。22年度までに江部乙小学校、明苑中学校、第一小学校、第三小学校、江部乙中学校の耐震改修をやるが、その後については、あくまでも検討ということなので知りませんとなってしまいうように思う。このままだと21年度から25年度まで東栄小学校の話し合いをすることになっているが、22年度末にそれが決まっていない状況になる可能性が非常に高いということである。そういう中で、耐震改修をする。開西中学校改築についての考えは次へと送る。でも東栄小学校と江部乙小学校とは話し合いしかしていないということになってしまうのではないのか。少子化は進んでいるので複式学級になるとそこに行かせたくないという親御さんも出てくる可能性がある。そういうことからしても議論には時間がかかるので、小学校5校と中学校2校の根拠を示してその議論をするのがいいと思う。その辺についてどのように考えて

教 育 長

いるのか。

教育委員会の中でも9月ころから月3回くらいのペースで議論をしてきた。もちろんそういった考え方も委員会の中であったのも事実である。耐震診断の結果がこういう形で出て、0.3以下の倒壊の危険性があるという校舎をそのままにして大規模改修や増改築となれば3年、4年かかることになる。子供たちや避難場所としてのあり方、第一義的には子供たちの安全を確保したいと思う。市長のマニフェストでは本来大規模改修2校となっているが、耐震補強を優先的にやらせていただきたいということであり、耐震診断の結果、23年度までに0.3未満のところは全校やり切るという意思を持っている。東栄小学校を除けば27年度までに滝川市内には0.7未満の学校はないということで今回の計画をつくらせていただいた。その中で学校がどうあるべきかということについては委員長が言われるとおり、ないものと仮定をして置いていく方法もあるが、この先統合となれば大きな規模の敷地が必要になることもあり、現実的に市内を見ても学校用地として市街地の中で新たに購入するというのはなかなか難しいことである。先ほど東西と南北の話もあったが、さまざまな議論のある中で選択肢についてはまだ結論を得ていない。今回の考え方の中では、地域全体として小学校、中学校がどうあるべきなのかという議論が進んでいけばいいと思っている。やはり一定規模の学校というのは必要であり、その中でどれだけきめの細かい教育ができるかというのが、目標であり、あるべき論だと思っている。そうした中で今後小学校5校、中学校2校の議論も進んでいくものと思っている。今の段階でことこことは言えない。将来的な児童数の推計は行っているが、時期としては例えば平成35年や40年にならないと適正規模を下回るということはないので、その辺についてはこれから議論を経て、次期5年後のローリングまでにその深まりを見てさらに具体的なものが出せば示していく必要があると思っている。

委 員 長

用地を用意してどうこうと言うつもりではなく、基本的には今ある既存の学校を使うということになると思う。規模を下回るところも出てくるので、それを含めてどうするのか。将来の少子化に向けたまちづくりに影響するのは明らかである。やはり先送りにほかならないとしか思えない。学校というのは拠点となるので、このことが示されながら進めるまちづくりが必要だと思う。特に中学校2校というのは大きなポイントとなる。私は2校にしてしっかりとやったほうがいいのではないかということについては認めるが、それをどのように配置するのか、どのように進めていくのかについては議論を深めていくしかないと思う。このことを平成31年のところに設けるのであれば、最初は東栄小学校の議論にしかない。余りにも地域対地域の議論にしかなくなる。それはおかしいと思うので、今後のやり方について伺いたいし、そういう意見があったということで教育委員会議にも伝えていただければありがたいと思う。

教 育 長

小学校5校、中学校2校という表現についてはかなり議論のあったところである。例えば計画期間内に小学校5校、中学校2校を目指してはどうかといったようにさまざまな意見があった中で、最終的に事務局としてはこういう形でまとめたいと思っている。確かに数字だけ出して学校名を言わないのはある意味非常に卑怯だと言われるかもしれないが、まちづくり全体の中での議論も必要となってくるし、全市的な議論にもなるので、具体的にどこをどこにと示すのは難しい。どの段階で示すのか、合意を得たところだけ進めるのか、合意のな

いところは先送りになっていくのではないかということも考えた。ただそれに伴って逆に期間がアバウトになることもあり、やはり年次的な計画の中で将来的にこうしたいという中で示した。もしかしたら今回小学校5校、中学校2校ということを示さなくてもよかったのかもしれないが、ただあるべき姿としてそこを目指してこれから議論していくのだということを教育委員会としてはきちんと打ち出したいということでこの数を出させていただいた。委員長の言われるような議論は教育委員会でもあったことは事実だし、改めてきょうの意見は教育委員会にも伝えたいと思う。

委員長

最後になるが、この小学校5校、中学校2校においては学校名を出しても構わないと思うし、そこに向かって前期計画、後期計画があっても構わないと思う。先ほども言ったが、ここの意見を教育委員会でも伝えていただければありがたいと思う。

委員長  
窪之内

他に質疑はあるか。

委員長が言ったように、そういう何かがないと関係するところだけの議論になってしまう。東滝川と江部乙が我慢すればいい。自分たちはまだ大丈夫なので私たちに関係ないということになりかねない。中学校2校がいいか悪いかは別として、委員長の言ったことというのは市内全体の問題だということである。中学校2校のうち1校は江部乙に置き、山の奥から通学するよりも市街から江部乙中学校に通学するほうが近いという論議もないわけでもない。そういう観点で、滝川市全体で適正配置を行うというようにしないとだめだと思う。学校区をいじらないとすれば、少ない学校だけ減らせばいいのではないかという議論になりやすい。委員長の意見もやはり全体のものとして考えるためのことだと思うので、その辺の議論の仕方を間違えないよう十分配慮して行ってほしいと思う。

教育長

東栄小学校や江部乙中学校の問題だけではないということもあって、小学校5校、中学校2校を出させていただいた。この適正配置は全市に及ぶ影響があるということで地域別の説明会も全学校区でやりたいと思っている。決して今具体的に名前の出ているところだけの問題だけではないときちんと伝える必要はあると思っている。

委員長

他に質疑はあるか。(なし)

(1)については、これからも継続的な議論になると思う。説明済みとする。

## 2 その他について

委員長  
窪之内

何かあるか。

西高の事故について、その後何か特別な経過があれば病状も含めて報告していただきたい。

教育長

最近の様子は聞いていないが、飛び降りた子については入院をしており、ギブスをして自分で歩けるようになっている。自傷事故の子については1月末に退院をして登校もしている。病状としては順調に回復している。

委員長

何かあるか。(なし)

## 3 次回委員会の日程について

委員長

次回委員会は正副委員長に一任願う。

以上で第19回総務文教常任委員会を閉会する。

閉 会 11:55